

惡鬼をはらふ事の侍る也。本朝のおこりをたづねれば、持統天皇三年正月の卯の日、大學寮よりたてまつるよし。日本紀にみへたり。其後仁壽二年正月に、諸衛祝の杖を獻じて、精魅をはらふと見へたり。たゞこれ惡氣をはらふことなり。うづへといふものは、つくも所よりすはまの作物のうへに、いはほをつくり、いはほの中に、御生氣の方の獸をつくりてたてまつりて、卯杖にあはしむるなり。たゞへば生氣東にある。としはうさぎをつくり、南にあるとしは馬をつくる也。延喜式をかんがふれば、兵衛督已下まいりて御杖をそうするとあり、いろくの木どもを五尺三寸づゝにきりて、二束三束にゆひてたてまつる也。是を正月かみの卯の日たてまつれば、卯杖といふなり。

〔古今要覽稿 時令〕うづへ 初卯杖のうへ 卯杖は正月の上の卯日、色々の木を五尺三寸にきりて、あるは一株、或は二株、あるは三株づゝ、ゆひて奉るものなり。延喜式 このこと持統天皇の三年にはじまり、但このときは大學寮より進れり。日本書紀 文德天皇仁壽二年より、諸衛府の獻することになりたり。是をもつて精魅を逐よしなり。實錄 作物所洲濱をつくり、その上にいはほ中に御生氣の方の獸をつくりて、卯杖にあはしむ。次第 なほくはしきことは、内裏式延喜式、江家次第等に見へたり。この儀建武の御宇までは、たしかに行はれたれども、いつよりやたへにけん、近代はきこへず。卯杖を漢の剛卯にならひてつくりたりといふ説はあやまり。略申 されどはやくよりあやまりきたれること、見へて江家次第の卯杖の條にも、漢書をひかれたり、禁中のみにあらで、伊勢にても内宮外宮へ奉り。大神宮儀式帳止 賀茂社にても在家などへおくり、四季草木行事、又熱田祭に卯杖舞あり。和訓 といへり。

〔内裏式上〕上卯日○正獻御杖式

天皇御紫宸殿、即春宮坊大夫以下昇御杖机皇太子相扶入自日華門升自南階、樹簾子敷上退出者